

## 会社プロフィール

### ● 当社グループの事業

NEXCO東日本グループは、東日本地域\*における高速道路の管理事業、建設事業、サービスエリア事業および高速道路関連ビジネスを行っています。



### ● 会社概要

社名 東日本高速道路株式会社 (East Nippon Expressway Company Limited)  
 代表者 代表取締役社長 小畠 徹  
 設立 2005年10月1日  
 資本金 525億円  
 社員数 2,283人 (2019年3月31日時点、社外への出向者を除き、社内への出向者を含む)

営業延長	3,943km
インターチェンジ	443カ所
スマートIC	55カ所
サービスエリア・パーキングエリア (うち、商業施設有199、商業施設無129)	328カ所
急速充電器	149カ所

### ● 営業概要



\*北海道、東北、関東、新潟県、長野県の一部

### ● 当社の沿革

- 1956 日本道路公団が発足
- 1960 京葉道路 一之江出入口～船橋IC 開通 翌年日本初の自動車専用道路となる
- 1971 北海道初の高速道路(道央道 北広島IC～千歳IC、札樽道 小樽IC～札幌西IC)開通
- 1975 東北道 全線開通
- 1985 関越道 全線開通
- 1988 北陸道 全線開通
- 1997 東京湾アクアライン 開通
- 1999 上信越道 全線開通
- 2001 ETCサービスを開始
- 2005 日本道路公団が民営化し、東日本高速道路株式会社が発足
- 2006 ブランドネームを「NEXCO東日本」とする
- 2007 お客様センター開設
- 2008 商業施設のフラッグシップブランド「Pasar(パサール)幕張」オープン
- 2009 インド事務所開設
- 2010 初のテーマ型エリアである「寄居 星の王子さまPA」オープン
- 2015 常磐道 全線開通  
高速道路リニューアルプロジェクト着手
- 2017 圏央道 境古河IC～つくば中央IC 開通 東名高速～東関東道がつながる
- 2018 外環道 三郷南IC～高谷JCT 開通

### ● 高速道路事業の枠組み

1956年に設立された日本道路公団は、他の道路関係公団とともに民営化され、2005年10月1日に、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下、「高速道路機構」とします)および高速道路会社6社が誕生しました。



当社は、東日本地域において高速道路の建設・更新事業を行い高速道路機構に資産と債務を引き渡すとともに、高速道路機構から借り受けた高速道路資産の管理運営をすることによって、高速道路機構へ高速道路資産賃借料(以下、「賃借料」とします)を支払っています。

高速道路事業では、高速道路の通行料金に利潤を含まないこととなっています。通行料金収入は、高速道路の維持管理や各種サービスの提供などとともに、高速道路機構への賃借料を通じて債務の返済にあてています。

